

総括

■ 機能種別

主たる機能種別「一般病院 1」及び副機能種別「リハビリテーション病院」を適用して審査を実施した。

■ 認定の種別

書面審査および 1 月 17 日～1 月 18 日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

機能種別	一般病院 1	認定
機能種別	リハビリテーション病院（副）	認定

■ 改善要望事項

- ・機能種別 一般病院 1
該当する項目はありません。
- ・機能種別 リハビリテーション病院（副）
該当する項目はありません。

1. 病院の特色

貴院は診療所として開設された後、岡谷病院として地域のニーズに応える形で開院された。新しい医療、介護福祉のニーズに応えるべく「おかたに病院」として現在地に移転された。地域医療や介護などの様々な変化の中で、急性期に特化した病院ではなく、住み慣れた町で安心して暮らすために必要な機能を有する病院として明確に位置づけられ、リハビリテーションセンターや血液透析センター、健診センター等を設け、同じ法人内では診療所、老健施設、訪問看護ステーションなどを設け、最期まで在宅で安心して暮らせる支援体制を整備している。

病院機能評価を継続的に受審し、職員一人一人がより良い病院を目指して日々努力している姿を確認することができた。貴院の益々の発展を期待したい。

2. 理念達成に向けた組織運営

理念・基本方針は簡潔で内容の見直しや院内外への周知は適切である。病院の意思決定会議である管理部会議を開催し、決定事項は拡大管理部会議で幹部職員に周知している。中期計画、年度毎の事業計画を立案し、内容は職員と共有している。

法人共通の電子カルテを導入し、法人内で情報共有を図り、グループウェアにより規程類の管理を行い、常に最新の情報が共有できる仕組みを構築している。

医療安全衛生委員会の開催、職員への予防接種、メンタルヘルス、職員健診の実施などを適切に管理している。職場会議や院長面談、所属長面談を通じて職員の意

見を拾い上げ改善につなげるとともに、子育て就労支援、複利厚生なども充実させている。全職員研修の未受講者へのフォローアップについては、理解度を高める取り組みが望まれる。看護師や薬剤師などの専門職は、クリニカルラダーやキャリアラダー、事務職員は全員が事務長を目指す次世代研修を取り入れ、全体の能力開発を行っている。また、医療メディエーターや認知症サポーターの資格取得を支援し、病院業務に役立てている。

3. 患者中心の医療

患者の権利を明文化し、職員への周知や院内掲示を適切に行っている。説明と同意に関する方針を明文化し、対象範囲を規定している。患者支援体制は地域医療課に社会福祉士、看護師、事務員など必要な職員を配置し多様な事例に対応している。患者の個人情報・プライバシーについては規程を整備しており、臨床における倫理的課題については適切に対処している。

患者に対する利便性は交通機関や病院の巡回バス、外来患者用駐車場などにより交通が確保され、コインランドリーや売店など生活延長上のサービスを提供しており適切である。療養環境については整理整頓され、清掃が行き届き、バリアフリーによる高齢者や障害者にも支障なく利用できるよう配慮されている。受動喫煙止対策については敷地内禁煙が実施され、禁煙支援士の資格を有する職員による禁煙教育・啓発が行われている。

4. 医療の質

意見箱や患者満足度調査によって患者・家族の意見を聞き、質の改善を行っている。多職種参加のカンファレンスの開催や、厚生労働省の「医療の質の向上・公開事業」に参加し、多くの臨床指標を測定しており、評価できる。参加施設とのベンチマーキングも行っており、今後これらのデータの積極的な活用をすることで医療の質向上につなげることを期待する。クリニカルパスのさらなる充実も期待される。業務の改善は、院長を中心に「カイゼン活動」に積極的に取り組んでいる。学会や研修会で報告した改善事例は、職員が共有できる体制となっている。新規の薬剤は薬事委員会、新規の医療機器は管理部会議で倫理性・安全性に配慮して検討している。

診療の管理・責任体制は明確で、患者・家族に周知徹底している。診療録は適時に記載され、退院時サマリーも適切に記載している。院内では医師、看護師をはじめコメディカルも参加するカンファレンスを積極的に開催し、多職種が共同して患者の診療・ケアを行っている。

5. 医療安全

安全確保に向けた体制は、医療安全の専従管理者を配置し、医療安全管理委員会など委員会が機能している。インシデント・アクシデントを収集し改善策とその効果を検討している。

誤認防止対策では、ID 番号の確認、本人確認として氏名の名乗り、リストバン

ド、ベッドネームでの確認などを実施し、検体の誤認防止対策も適切である。チューブの誤認防止もマニュアルに沿って適切に行われている。情報伝達のエラー防止対策は、医師による指示出し、薬剤師・看護師などによる指示受けを適切に実施しており、やむを得ない場合の口頭指示の手順も整備され適切である。薬剤の安全な使用は、薬剤師による払い出し、調製・混合、麻薬・ハイリスク薬の保管・管理などは適切である。

転倒・転落防止対策では、全入院患者にリスク評価を行い、危険度に基づき個性を加味した看護計画を立案して実施している。医療機器は使用前・使用中・使用後点検を適切に実施しており、機器使用に対する教育・研修も適切である。患者急変時の対応については、院内緊急コードを設定しており、各部署に使用方法が表示されている。部署ごとのシミュレーション訓練、BLS 研修なども適切に行っている。

6. 医療関連感染制御

ICD が中心となり多職種で構成された院内感染対策委員会、感染対策チーム、看護部感染対策委員会により医療関連感染制御に向けた ICT 活動を適切に行っている。医療感染対策マニュアルも整備し、適時改訂している。院内での検出菌の分析、感染サイト別のサーベイランスにより院内の感染症の分析・検討を行い、医療関連起因菌については数値目標を明確にして取り組んでいることは評価できる。アウトブレイクの基準を明確にし、インフルエンザなどの発症に対しても感染拡大抑制に適切に対応している。院外の奈良県からの感染情報に基づき、院内に注意喚起を行い、医療関連制御に向けた情報の収集と検討を適切に行っている。

標準予防策に基づき、手指衛生、個人防護用具を使用している。感染性廃棄物などの取り扱いも適切に行われている。抗菌薬の指針に従って抗菌薬を使用し、さらに医師と薬剤師による抗菌薬適正使用支援チームが適正使用について検討している。検出菌と抗菌薬感受性についても、定期的にアンチバイオグラムを作成し、医師にフィードバックしており、適切である。

7. 地域への情報発信と連携

健康だよりなどの広報誌により院内の取り組みを定期的に外部に発信している。今後は、病院の特徴を示す診療実績なども広く外部に向けて発信されることを期待する。地域医療課は社会福祉士、退院調整看護師などで構成され、地域の病院や介護保健福祉施設などの特性などを把握し、定期的な訪問や情報交換会により円滑な連携を行っている。急性期から亜急性期、慢性期、在宅に至る広い機能を有する病院として、前方支援、後方支援などの連携機能は適切に運営しており評価できる。

予防医療として市民公開講座、健康教室、学校健診などの活動を積極的に行っている。特に健康祭りでは予防医療や健康増進に関わるイベントをなじみやすい形で提供することで毎年多くの参加者を得ている。また、地域医療、介護福祉に関わる多くのスタッフと連携して、能力向上のための研修会、意見交換会などを主体となって実施しており、高く評価したい。

8. チーム医療による診療・ケアの実践

全体的に多職種が協働して、チーム医療による適切な診療・ケアを実践している。外来診療は、患者の情報収集を十分に行い、医師や看護師などが療養指導を積極的に行っている。地域の医療機関などからの入院紹介受け入れ、退院後の調整は地域医療課が迅速な対応を行っている。侵襲的検査、入院診療計画の説明と同意の取得は医師によって行われ、患者・家族からの相談対応、入院時の説明は社会福祉士、看護師によって適切に行われている。医師・看護師は多職種との連携を図り、それぞれの役割の中で病棟業務を適切に行っている。抗菌薬の注射においては、医師がリスク判定を行い、それに基づき看護師が観察する取り組みは評価できる。その他、輸血の実施、周術期、重傷患者の管理、褥瘡管理、症状緩和の対応、身体抑制に対する人権的配慮は適切に行われている。リハビリテーションは医師の処方に基づき、計画され適切に実施している。

退院に関しては、入院早期から多職種により退院に向けての個別的な計画を立て退院に向けた取り組みを行っている。また、在宅医療センターの医師、看護師が中心となり、他部署と連携して、退院から在宅まで切れ目のない診療とケアを提供していることは高く評価できる。ターミナルステージの取り組みは、患者・家族の意向を尊重して多職種でカンファレンスしながら適切に対応している。

＜副機能：リハビリテーション病院＞

開設後、約10年になる回復期リハビリテーション病棟はリハビリテーション担当医が配置され、多職種の専門性を活かして運営しており、高い治療実績を上げている。入院から退院までの一連のシステムが適切に整備され、社会的不利を抱えた困難事例も積極的に受け入れて様々な職種、診療科が関わり、最大限のリハビリテーション効果を上げている。住み慣れた在宅、自宅復帰に向けて粘り強く取り組み、人間としての復活、自立を支援している姿勢はリハビリテーションの真髄ともいえる。今後は栄養指導の増加、看護師の入退院支援への積極的な関わりなど、今後の取り組みを期待したい。

9. 良質な医療を構成する機能

各部署が連携して信頼される病院として充実した機能を適切に発揮している。薬剤管理機能はおおむね適切に行われているが、医薬品集の更新頻度は検討を期待したい。臨床検査機能、画像診断機能は、必要な検査を迅速・正確に実施しパニック値の対応も適切である。栄養管理機能はニュークックチル形式により常に温かい食事を提供している。リハビリテーションは慢性期から在宅復帰、施設入所に向けた援助を行っており、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟を中心にその機能を発揮している。診療情報管理では診療録管理士により全退院患者の量的点検を適切に実施している。医療機器管理は臨床工学士が一元的に管理している。洗浄・滅菌機能も適切に行われている。

病理は外注であるが、病理結果が確実に医師に伝達する仕組みが整っている。輸血の発注・保管・供給・実施・返却・輸血後の感染症のチェックは適切に行われている。手術・麻酔機能は安全かつ適切に実施されている。救急機能も地域の二次輪番に参加し、地域の救急医療に対応している。

10. 組織・施設の管理

病院運営における予算管理は、前年度の実績ならびに支出計画をもとに作成し、病院の管理部会議を経由して法人として理事会で承認している。承認された予算は管理部会議、拡大管理部会議、労働協議会で幹部職員や一般職員に周知している。医事課は医師の協力の下で返戻・査定状況を把握し、未収金に関しても督促管理を確実にやっている。業務を委託する手順、選定のルール、委託業者の評価は適切に行われているが、委託業者の職員への研修については実施状況を確認されたい。

施設・設備関係の日常点検、法的に求められる定期点検、医療ガスの管理は委託業者により適切に行われている。医薬品は薬剤部、診療材料は外部 SPD により各部署が発注管理し、購入・選定・承認までの流れ、検収は適切に行われている。各種災害マニュアルを整備し、夜間想定を含む防災訓練の訓練も適切に実施している。夜間の保安体制は当直者が常駐し、緊急時の対応などを取り決めている。医療事故発生時の対応手順が定められ、ケースによっては外部の弁護士などの有識者に相談できる体制となっている。また、医療メディエーターを配置し、患者に寄り添う支援を行っている。

11. 臨床研修、学生実習

医学生、看護学生（主に体験実習）、薬学部生、事務系学生などの受け入れを行っている。受け入れに際しては、学校側の誓約書や、必要な予防接種を確認するとともに、実習開始前にはオリエンテーションを実施し、病院側としての関わりや、患者に接する職種を対象に、医療安全、感染予防に関する教育、事故時の対応を示す説明などを行っており適切である。

1 患者中心の医療の推進

評価判定結果

1.1	患者の意思を尊重した医療	
1.1.1	患者の権利を明確にし、権利の擁護に努めている	A
1.1.2	患者が理解できるような説明を行い、同意を得ている	A
1.1.3	患者と診療情報を共有し、医療への患者参加を促進している	A
1.1.4	患者支援体制を整備し、患者との対話を促進している	A
1.1.5	患者の個人情報・プライバシーを適切に保護している	A
1.1.6	臨床における倫理的課題について継続的に取り組んでいる	A
1.2	地域への情報発信と連携	
1.2.1	必要な情報を地域等へわかりやすく発信している	B
1.2.2	地域の医療機能・医療ニーズを把握し、他の医療関連施設等と適切に連携している	A
1.2.3	地域に向けて医療に関する教育・啓発活動を行っている	S
1.3	患者の安全確保に向けた取り組み	
1.3.1	安全確保に向けた体制が確立している	A
1.3.2	安全確保に向けた情報収集と検討を行っている	A
1.4	医療関連感染制御に向けた取り組み	
1.4.1	医療関連感染制御に向けた体制が確立している	A
1.4.2	医療関連感染制御に向けた情報収集と検討を行っている	A
1.5	継続的質改善のための取り組み	
1.5.1	患者・家族の意見を聞き、質改善に活用している	A
1.5.2	診療の質の向上に向けた活動に取り組んでいる	B

1.5.3	業務の質改善に継続的に取り組んでいる	A
1.5.4	倫理・安全面などに配慮しながら、新たな診療・治療方法や技術を導入している	B
1.6	療養環境の整備と利便性	
1.6.1	患者・面会者の利便性・快適性に配慮している	A
1.6.2	高齢者・障害者に配慮した施設・設備となっている	A
1.6.3	療養環境を整備している	A
1.6.4	受動喫煙を防止している	A

2 良質な医療の実践 1

評価判定結果

2.1	診療・ケアにおける質と安全の確保	
2.1.1	診療・ケアの管理・責任体制が明確である	A
2.1.2	診療記録を適切に記載している	A
2.1.3	患者・部位・検体などの誤認防止対策を実践している	A
2.1.4	情報伝達エラー防止対策を実践している	A
2.1.5	薬剤の安全な使用に向けた対策を実践している	A
2.1.6	転倒・転落防止対策を実践している	A
2.1.7	医療機器を安全に使用している	A
2.1.8	患者等の急変時に適切に対応している	A
2.1.9	医療関連感染を制御するための活動を実践している	A
2.1.10	抗菌薬を適正に使用している	A
2.1.11	患者・家族の倫理的課題等を把握し、誠実に対応している	A
2.1.12	多職種が協働して患者の診療・ケアを行っている	A
2.2	チーム医療による診療・ケアの実践	
2.2.1	来院した患者が円滑に診察を受けることができる	A
2.2.2	外来診療を適切に行っている	A
2.2.3	地域の保健・医療・介護・福祉施設等から患者を円滑に受け入れている	A
2.2.4	診断的検査を確実・安全に実施している	A
2.2.5	適切な連携先に患者を紹介している	A
2.2.6	入院の決定を適切に行っている	A
2.2.7	診断・評価を適切に行い、診療計画を作成している	A

2.2.8	患者・家族からの医療相談に適切に対応している	A
2.2.9	患者が円滑に入院できる	A
2.2.10	医師は病棟業務を適切に行っている	A
2.2.11	看護師は病棟業務を適切に行っている	A
2.2.12	投薬・注射を確実・安全に実施している	A
2.2.13	輸血・血液製剤投与を確実・安全に実施している	A
2.2.14	周術期の対応を適切に行っている	A
2.2.15	重症患者の管理を適切に行っている	A
2.2.16	褥瘡の予防・治療を適切に行っている	A
2.2.17	栄養管理と食事指導を適切に行っている	A
2.2.18	症状などの緩和を適切に行っている	A
2.2.19	リハビリテーションを確実・安全に実施している	A
2.2.20	安全確保のための身体抑制を適切に行っている	A
2.2.21	患者・家族への退院支援を適切に行っている	A
2.2.22	必要な患者に在宅などで継続した診療・ケアを実施している	S
2.2.23	ターミナルステージへの対応を適切に行っている	A

3 良質な医療の実践 2

評価判定結果

3.1	良質な医療を構成する機能 1	
3.1.1	薬剤管理機能を適切に発揮している	A
3.1.2	臨床検査機能を適切に発揮している	A
3.1.3	画像診断機能を適切に発揮している	A
3.1.4	栄養管理機能を適切に発揮している	A
3.1.5	リハビリテーション機能を適切に発揮している	A
3.1.6	診療情報管理機能を適切に発揮している	A
3.1.7	医療機器管理機能を適切に発揮している	A
3.1.8	洗浄・滅菌機能を適切に発揮している	A
3.2	良質な医療を構成する機能 2	
3.2.1	病理診断機能を適切に発揮している	A
3.2.2	放射線治療機能を適切に発揮している	NA
3.2.3	輸血・血液管理機能を適切に発揮している	A
3.2.4	手術・麻酔機能を適切に発揮している	A
3.2.5	集中治療機能を適切に発揮している	NA
3.2.6	救急医療機能を適切に発揮している	A

4 理念達成に向けた組織運営

評価判定結果

4.1	病院組織の運営と管理者・幹部のリーダーシップ	
4.1.1	理念・基本方針を明確にしている	A
4.1.2	病院管理者・幹部は病院運営にリーダーシップを発揮している	A
4.1.3	効果的・計画的な組織運営を行っている	A
4.1.4	情報管理に関する方針を明確にし、有効に活用している	A
4.1.5	文書管理に関する方針を明確にし、組織として管理する仕組みがある	A
4.2	人事・労務管理	
4.2.1	役割・機能に見合った人材を確保している	A
4.2.2	人事・労務管理を適切に行っている	A
4.2.3	職員の安全衛生管理を適切に行っている	A
4.2.4	職員にとって魅力ある職場となるよう努めている	A
4.3	教育・研修	
4.3.1	職員への教育・研修を適切に行っている	B
4.3.2	職員の能力評価・能力開発を適切に行っている	A
4.3.3	学生実習等を適切に行っている	A
4.4	経営管理	
4.4.1	財務・経営管理を適切に行っている	A
4.4.2	医事業務を適切に行っている	A
4.4.3	効果的な業務委託を行っている	B

4.5	施設・設備管理	
4.5.1	施設・設備を適切に管理している	A
4.5.2	物品管理を適切に行っている	A
4.6	病院の危機管理	
4.6.1	災害時の対応を適切に行っている	A
4.6.2	保安業務を適切に行っている	A
4.6.3	医療事故等に適切に対応している	A

機能種別：リハビリテーション病院（副）

2 良質な医療の実践 1

評価判定結果

2.2	チーム医療による診療・ケアの実践	
2.2.1	来院した患者が円滑に診察を受けることができる	A
2.2.2	外来診療を適切に行っている	A
2.2.3	診断的検査を確実・安全に実施している	A
2.2.4	入院の決定を適切に行っている	A
2.2.5	診断・評価を適切に行い、診療計画を作成している	A
2.2.6	リハビリテーションプログラムを適切に作成している	A
2.2.7	患者・家族からの医療相談に適切に対応している	S
2.2.8	患者が円滑に入院できる	A
2.2.9	医師は病棟業務を適切に行っている	A
2.2.10	看護・介護職は病棟業務を適切に行っている	A
2.2.11	投薬・注射を確実・安全に実施している	A
2.2.12	輸血・血液製剤投与を確実・安全に実施している	A
2.2.13	周術期の対応を適切に行っている	A
2.2.14	褥瘡の予防・治療を適切に行っている	A
2.2.15	栄養管理と食事指導を適切に行っている	A
2.2.16	症状などの緩和を適切に行っている	A
2.2.17	理学療法を確実・安全に実施している	A
2.2.18	作業療法を確実・安全に実施している	A
2.2.19	言語聴覚療法を確実・安全に実施している	A
2.2.20	生活機能の向上を目指したケアをチームで実践している	S

2.2.21	安全確保のための身体抑制を適切に行っている	A
2.2.22	患者・家族への退院支援を適切に行っている	S
2.2.23	必要な患者に継続した診療・ケアを実施している	A

年間データ取得期間： 2017 年 4 月 1 日 ～ 2018 年 3 月 31 日
 時点データ取得日： 2018 年 4 月 2 日

I 病院の基本的概要

I-1 病院施設

- I-1-1 病院名： 特定医療法人岡谷会 おかたに病院
 I-1-2 機能種別： 一般病院1、リハビリテーション病院(副機能)
 I-1-3 開設者： 医療法人
 I-1-4 所在地： 奈良県奈良市南京終町1-25-1

I-1-5 病床数

	許可病床数	稼働病床数	増減数(3年前から)	病床利用率(%)	平均在院日数(日)
一般病床	100	100	+0	97.7	20.2
療養病床	50	50	+0	98	78.5
医療保険適用	50	50	+0	98	78.5
介護保険適用					
精神病床					
結核病床					
感染症病床					
総数	150	150	+0		

I-1-6 特殊病床・診療設備

	稼働病床数	3年前からの増減数
救急専用病床		
集中治療管理室 (ICU)		
冠状動脈疾患集中治療管理室 (CCU)		
ハイケアユニット (HCU)		
脳卒中ケアユニット (SCU)		
新生児集中治療管理室 (NICU)		
周産期集中治療管理室 (MFICU)		
放射線病室		
無菌病室		
人工透析	31	+0
小児入院医療管理料病床		
回復期リハビリテーション病床	50	+0
地域包括ケア病床	71	+46
特殊疾患入院医療管理料病床		
特殊疾患病床		
緩和ケア病床		
精神科隔離室		
精神科救急入院病床		
精神科急性期治療病床		
精神療養病床		
認知症治療病床		

I-1-7 病院の役割・機能等

在宅療養支援病院

I-1-8 臨床研修

I-1-8-1 臨床研修病院の区分

医科 ☐ 1) 基幹型 ☒ 2) 協力型 ☐ 3) 協力施設 ☐ 4) 非該当
 歯科 ☐ 1) 単独型 ☐ 2) 管理型 ☐ 3) 協力型 ☐ 4) 連携型 ☐ 5) 研修協力施設
☒ 非該当

I-1-8-2 研修医の状況

研修医有無 ☐ 1) いる 医科 1年目： 人 2年目： 人 歯科： 人
☒ 2) いない

I-1-9 コンピュータシステムの利用状況

電子カルテ ☒ 1) あり ☐ 2) なし 院内LAN ☒ 1) あり ☐ 2) なし
 オーダリングシステム ☒ 1) あり ☐ 2) なし PACS ☒ 1) あり ☐ 2) なし

I-2 診療科目・医師数および患者数

I-2-1 診療科別 医師数および患者数・平均在院日数

[illegible]

I-2-2 年度推移

年度(西暦)	実績値			対 前年比%	
	昨年度	2年前	3年前	昨年度	2年前
	2017	2016	2015	2017	2016
1日あたり外来患者数	196.02	195.03	196.60	100.51	99.20
1日あたり外来初診患者数	14.12	14.04	15.08	100.57	93.10
新患率	7.20	7.20	7.67		
1日あたり入院患者数	146.83	145.42	145.34	100.97	100.06
1日あたり新入院患者数	4.12	4.12	4.34	100.00	94.93